

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12598

研究課題名(和文)テロリズムに対する保健師の準備態勢に関するコンピテンシー・モデルの開発

研究課題名(英文) Developing a competency model of readiness for bioterrorism in public health nurses

研究代表者

鈴木 良美 (SUZUKI, Yoshimi)

東京医科大学・医学部・教授

研究者番号：90516147

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本における地域の健康危機管理の責務を担う保健師の、バイオテロへの準備態勢を整備することであった。

バイオテロに対する日本の保健師の準備態勢に関して、文献検討と研究者間での検討をもとにコンピテンシーモデルを開発し、さらに量的調査によって実態を明らかにした。調査の結果、日本の保健所感染症対策部門保健師のバイオテロへの知識は十分ではなく、研修経験者も1割程度と少なかった。次いで、バイオテロに対する保健師および学生への教育プログラムを開発・実施し、前後で評価した。その結果、知識・認識共に実施後に上昇し、プログラムの効果が得られたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2020年5月現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中に蔓延し、人々の生活や社会経済活動も影響を受けている。感染症の拡大は人々への健康や生活への影響が多であり、それらを想定した国や自治体の準備態勢が拡大防止や予防に貢献できると考えられる。バイオテロにおいても、その準備態勢を整えることで、被害を防止や最小限に食い止めることができ、そのために必要な知識・技術を、健康危機管理の第一線で活動する保健所の感染症対策部門保健師が獲得し、準備態勢を整えることは喫緊の課題である。

研究成果の概要(英文)： Public health nurses (PHNs) are responsible for health crisis management in Japan. The purpose of this study was to examine PHNs' readiness for bioterrorism. A competency model of Japanese PHN readiness for bioterrorism was developed based on a literature review and discussion between researchers. Readiness for bioterrorism in Japanese PHNs was measured with a quantitative survey. Findings indicated that Japanese PHNs in departments for infectious disease control in public health centers did not have sufficient knowledge about bioterrorism, and the number of trained people was about 10%. Moreover, an educational program for PHNs and students against bioterrorism was developed, implemented, and evaluated before and after implementation. Results showed that knowledge and recognition of participants increased after the implementation, and the effect of the program was observed.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：バイオテロリズム 感染症 保健師 健康危機管理

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、世界各地でテロリズム(以下、テロ)が発生し、東京オリンピックを迎える日本もその標的となる可能性がある。地域の健康危機管理の責務を担う保健師は、テロへの準備が急務である。しかし、これまでの研究では、テロに対する日本の保健師活動の実態は明らかにされていなかった。

2. 研究の目的

本研究は日本の保健師がテロに対する準備態勢(Preparedness)を整備することを目指し、以下の3点を目的とした。

- 1) テロに対する国内外の保健師活動の実態や準備態勢を明らかにする。
- 2) テロに対する日本の保健師の準備態勢に関するコンピテンシー・モデルを開発する。
- 3) 上記の結果をもとに、テロに対する保健師および学生への教育プログラムを開発・実施・評価する。

3. 研究の方法

- 1) バイオテロに対する国内外の保健師活動や準備態勢を文献検討により明らかにした。
- 2) 1)の結果をもとに研究者間で検討し、テロに対する日本の保健師の準備態勢に関するコンピテンシー・モデルを開発し、それを基盤にテロに対する保健師の準備態勢を量的調査によって明らかにした。
- 3) さらにテロに対する保健師および学生への教育プログラムを開発・実施し、評価した。

4. 研究成果

1) バイオテロに対する保健師の準備態勢に関する文献検討

(1) バイオテロに対する保健師の準備態勢に関する文献レビュー

上記の文献に関して、和文献は該当する文献がなく、英文献7件の分析を行った。文献検討の結果、バイオテロへの保健師の準備態勢は米国ですら十分ではないものの、研修受講経験のある方が正確な知識を得ており、日本でも準備態勢の実態を明らかにすることや、保健師の準備態勢への教育が必要であることが示唆された。この成果を2018年月に第6回日本公衆衛生看護学会学術集会で示説発表した。

(2) バイオテロに対する保健師の準備態勢およびテロに関する概念の分析

Rodgers(2000)の概念分析の手法を用いて、バイオテロに対する保健師の準備態勢に関する13件の英文献を分析した。その結果、バイオテロに対する保健師の準備態勢とは、保健師が、訓練に参加し知識を獲得し必要性を認識して個人の準備態勢を整え、さらに地域診断、対策計画立案、予防と対策の準備、評価、連携と協働を通じて地域での準備態勢を整えることであった。今後は、日本の保健師のバイオテロへの知識・認識を明らかにするとともに、日本の保健師の現状と制度を踏まえた上での具体的な準備態勢強化への取り組みが示唆された。この成果を2019年1月に第7回日本公衆衛生看護学会で示説発表した。また、テロに関する基礎概念を分析し、「テロに関する覚書 - 個人を規律する国際法の視点から」を獨協大学学報にて発表した。

2) コンピテンシー・モデルの開発と保健師を対象にした調査

上記の概念分析の結果からコンピテンシー・モデルを開発し、そのモデルをもとに2019年2-3月に、東京オリンピックの開催地となる東京とその近県(埼玉県、千葉県、神奈川県)の保健所感染症対策部門95か所に勤務する保健師、1か所につき2名、計190名を対象に、バイオテロに対する準備態勢に関する無記名自記式質問紙調査を実施した。回収は71名(37%)であった。バイオテロの中でも蓋然性が高いと言われる炭疽菌などの感染症の治療や対応に関してわかると回答した人は少数であり、さらに職場でバイオテロ研修の受講経験がある保健師は14%のみであり、今後のバイオテロを含む健康危機管理教育プログラムの開発と推進は喫緊の課題であると考えられた。調査結果に関しては、2020年1月の第8回日本公衆衛生看護学会および、2020年2月のThe 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (WANS)で示説発表した。

3) 保健師および学生を対象にした教育プログラムの開発、実施と評価

(1) 保健師を対象にした教育プログラムの開発、実施と評価

上記の調査結果をもとに、保健師を対象にした教育プログラムを開発し、2019年9月13日に、「バイオテロの基礎知識と保健師の対応に関する研修」を日本赤十字看護大学で開催した。当日は保健師10名、学生13名、関係者2名、計25名が参加した。内容は、これまでの研究成果の説明、バイオテロの基礎知識の講義、机上訓練であった。アンケートの実施前後で知識、認識を比較したところ、実施後に知識・認識が向上しており、基礎的な知識が得られたという意見が聞かれていた。このプログラムの成果を2020年1月の第8回日本公衆衛生看護学会で示説発表した。

(2) 保健師学生を対象にした教育プログラムの開発、実施と評価

保健師を対象にしたプログラムをもとに学生用の教育プログラムを開発し、2019年4-7月に首都圏3校の保健師学生52名を対象にバイオテロに関する健康危機管理教育を行った。教育の前後で無記名自記式質問紙によるアンケートを実施したところ、参加学生のバイオテロの知識、認識は教育受講後に有意に高くなり、今回のプログラムが有効であったことが示唆された。この成果を2020年1月の第8回日本公衆衛生看護学会で示説発表した。

(3) 保健師および研究者を対象にしたワークショップの開催

2020年1月12日に、第8回日本公衆衛生看護学会ワークショップ「東京オリンピック前に知っておきたい！バイオテロへの保健師の準備態勢」を開催した。ワークショップには研究者5名、保健師15名が参加し、基礎的な知識を確認するとともに、保健師の対応を検討できる場となった。

引用文献

Rodgers, B. L., & KnafI, K. (2000). Concept development in nursing. Foundations, techniques and applications. Philadelphia: Saunders

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木淳一	4. 巻 34
2. 論文標題 テロに関する覚書-個人を規律する国際法の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 獨協大学学報	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 鈴木良美、澤井美奈子、石田千絵、呉珠響
2. 発表標題 「バイオ・テロリズムに対する保健師の準備態勢（Preparedness）」に関する英文献の概念分析
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木良美
2. 発表標題 保健師を対象としたバイオテロの準備態勢に関する英文献のレビュー
3. 学会等名 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木良美、澤井美奈子、石田千絵、呉珠響
2. 発表標題 バイオテロに対する感染症対策部門保健師の知識や研修受講経験
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤井美奈子、鈴木良美、石田千絵、呉珠響
2. 発表標題 バイオテロに関する健康危機管理教育受講と保健師学生の知識、認識の変化
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木良美、石田千絵、澤井美奈子、呉珠響
2. 発表標題 東京オリンピック前に知っておきたい！ バイオテロへの保健師の準備態勢(ワークショップ)
3. 学会等名 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshimi Suzuki, Chie Ishida, Minako Sawai, Chu-Hyang Oh
2. 発表標題 The Relationship between Bioterrorism Training Participation of Public Health Nurses and Their Attributes, Knowledge, and Recognition of Preparedness in Japan
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 千絵 (ISHIDA Chie) (60363793)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授 (32693)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	澤井 美奈子 (SAWAI Minako) (90520776)	湘南医療大学・保健医療学部看護学科・准教授 (32728)	
研究 協力者	鈴木 淳一 (SUZUKI Junichi) (10286015)	獨協大学・法学部・国際関係法学科 (32406)	
研究 協力者	呉 珠響 (OH ChuHyang) (80511401)	東京医科大学・医学部・看護学科 (32645)	